

特別展

建国1100年

高麗

こうらい

——金属工芸の輝きと信仰

1100年前に朝鮮半島に誕生した高麗——王侯貴族を中心として、文化・美術において成熟した時代が築かれ、背景に、厳か、かつ煌びやかに荘厳された仏教や水鏡をはじめ、鏡や装身具など、今なお輝きを放つ金属工芸に焦点をあて、高麗の文化に迫ります。

2018

10・6土 — 11・11日

【オープニングイベント】10月6日(土)午前10時～11時・講堂

※当日先着順「高麗展の見どころ解説」当館学芸部係長 瀧朝子
オープニングコンサート…韓国民謡・伝統舞踊 金姫玉氏・黄金福氏

【講演会】10月28日(日)午後2時・講堂

「韓国で新たに出土した金工品の現況と特徴」韓国東国大学校教授 崔應天氏

【日曜美術講座】10月21日(日)午後2時・講堂

「高麗の祈りの美」当館学芸部係長 瀧朝子

【文華苑講座】11月4日(日)午後2時・講堂

「日本庭園の現場から」庭舎M.A.K.U.O.A代表・庭職人 牧岡 生氏

【列品解説】毎週土曜日午後2時から 当館学芸部による

【華コンサート】10月13日(土)午後1時・講堂

古楽アンサンブル フリットネッロ(笛の楽団) ※要観覧券、10時より着席にて配布

【呈茶】11月10日(土)午後1時半～3時半・ロビー

帝塚山高等学校茶道部

■休館日

毎週月曜日(ただし、10月8日(祝)は開館し、翌9日(火)が休館)

■開館時間

午前10時～午後5時(入館は午後4時まで)

■入館料

一般930円／高校・大学生720円
小学・中学生 無料

※20名以上の団体は相当料金の2割引で引率者1名無料 ※「障がい者手帳」をお持ちの方とご同伴者1名2割引

〈主催〉公益財団法人 大和文華館
〈共催〉毎日新聞社 〈助成〉芸術文化振興基金
〈後援〉株式会社 近商ストア

大和文華館

特別展

建国1100年 高麗

こうらい

—金属工芸の輝きと信仰

高麗(918—1392年)は、朝鮮半島の歴史の中でも文化・美術において成熟した時代といえます。中国 北宋時代に、徐兢は使節団の一人として高麗に赴き、首都開城に滞在した際の見聞や自らの感想を記した「宣和奉使高麗図経」を帰国後に皇帝に上奏しています。その中では、高麗の螺鈿漆器や青磁が「極精巧」「細密可貴」「色沢尤佳」と称され、技術の高さと美しさが認められていたことがうかがえます。そして二千年以上経た今なお、仏教への篤い信仰を背景に生み出された仏画、金属工芸、螺鈿漆器、「翡色」と謳われた清らかな色合いの青磁に見られる精緻な造形は、人々の心を惹きつける輝きを放っています。

朝鮮半島での金属工芸の歴史の中で、仏教を篤く崇拜した統一新羅とともに、高麗時代には金属を用いた仏教文物が盛んに制作され、その制作背景には、国の安泰への願いや、個人の信仰などの切実な祈りが籠められています。これらには金や銀といった貴重な材質が豊かに用いられて、厳かかつ煌びやかに荘厳され、王侯貴族を中心として花開いた文化を鮮やかに反映しています。

本展覧会は、仏龕や舍利容器などの仏具、梵鐘、匙や箸などの飲食器、装身具、鏡など、信仰や生活、装飾といった多様な用途を反映する金属工芸作品に焦点をあて、高麗時代の製作技術や美意識、文化に迫ろうとするものです。高麗は日本や呉越国、北宋、元などと交流を持っており、金工作品からはこのような文化交流の軌跡をもうかがうことができます。高麗が建国した918年から1100年を迎える2018年に、近年の韓国における新たな発見や研究を踏まえて、東アジアにおける高麗の金属工芸を捉え直します。



1



3



2



4



5



4

2 大方広華嚴經 卷第三十五 高麗時代 大和文華館
1 梵鐘 重要文化財 高麗時代 天正十二年(一〇三三)銘 滋賀園城寺
3 銅製銀象嵌香炉 高麗時代 奈良長谷寺
5 金製装飾具 高麗時代 東京国立博物館

出陳品 約95件

◎ 重要文化財
○ 重要美術品

序章 統一新羅まで

- ・ 金銅飛天形飾金具 統一新羅時代 大和文華館
- 金銅円筒形舍利盒 統一新羅時代 東京国立博物館

花開く高麗の文化

- ・ 青磁象嵌花文合子 大和文華館
- ・ 石造如来坐像 大和文華館
- ・ 大方広華嚴經 卷第三十五・三十六 大和文華館
- ・ 大方広華嚴經 卷第四 徳川美術館

信仰の美—仏教の荘厳具・梵鐘

- ・ 銀製鍍金小仏龕 東京国立博物館
- ・ 銀製層塔形舍利容器及び金製内容器 奈良国立博物館
- ・ 金銅八角舍利容器「至治三年(1333)銘 高麗美術館
- ・ 金銅五鈎鈴 大和文華館
- ・ 銅製銀象嵌柳水禽文浄瓶 大和文華館
- ・ 銅製銀象嵌浄瓶 泉屋博古館
- ・ 青銅銀象嵌梵字宝相華唐草文香炉 根津美術館
- ◎ 梵鐘「峻慶四年(963)銘 広島・照運寺
- ・ 梵鐘「明昌七年(1196)銘 東京国立博物館
- ・ 金鼓「崇慶二年(1213)銘 東京国立博物館

装いの美—飲食器・装身具・鏡

- ・ 青銅水注 和泉市久保徳記念美術館
- ・ 金銅粧刀鞘 大阪市立東洋陶磁美術館
- ・ 金製梅文飾 高麗時代 ほか
- ・ 大阪市立東洋陶磁美術館

※期間中一部展示替えがあります。

特別 大和文華館
連携 大阪市立東洋陶磁美術館
寧楽美術館

■ 大阪市立東洋陶磁美術館 特別展「高麗青磁—ヒスイのきらめき」
9・1(土)・11・25(日)
■ 寧楽美術館「翡翠と象嵌の高麗青磁—型押し李朝粉青沙器」
10・1(月)・2019・2・24(日)
※入館料特別割引券の提示で各館の入館料が割引になります。詳しくは各館ホームページでご確認ください。

大和文華館

THE MUSEUM YAMATO BUNKAKAN

(交通) 近鉄奈良線学園前駅下車、南出口より徒歩約7分。無料駐車場あり

〒631-0034 奈良市学園南1-11-6

TEL (0742) 45-0544 FAX (0742) 49-2929

大和文華館 検索

